

◆ 実戦問題 42 ◆

今は昔、^{*}朱雀院の女御と申すは、^{*}小野宮の太政大臣の御娘なり。その女御は
 なく失せ給ひにけり。しかるに、その女御のもとにさぶらひける女房ありけり。
 名をば助とぞ言ひける。かたち有様よりはじめて、心ばへをかしかりければ、女御
 これをむつまじき者にして、あはれに思したりければ、女房も*うつくしく思ひ通
 はして過ぎけるほどに、^{*}常陸守が妻になりてその国に下りにけり。(1)心苦しう思
 ひけれども、あながちにいざなひければ、国に下りても女御を恋ひ奉りけるに、か
 の女御に御覽せさせむとて、*いつくしき貝どもを拾ひて、箱一具に入れて持て上
 りたりけるに、女御失せ給ひにけりと聞きて、泣き悲しむと(2)いへばおろかなりや。
 しけれどもかひなくして、その貝一箱を、「これ御誦経にせさせ給へ」とて、^{*}大
 き大臣に奉りたりけるに、貝の中に、助、かくなむ書き入れたりける。
 拾ひおきし君もなきさの*うつせ貝今はいづれの浦に寄らまし

設問

問1 傍線(1)は、誰が、どういうことを「心苦しく」思ったというのか。具体的に説明せよ。

問2

傍線(2)の意味を記せ。

問3

次の文の空欄にあてはまる言葉を記せ。

「拾ひおきし…」の第二句「君もなきさ」は、このままでは意味が通らな
 い。下へ続けて「①」のうつせ貝」と解釈すると、「君も」の修飾する
 語句がなくなる。ただ、「なき」の濁点を無視するなら、女御が死んだこと
 を表す「君も」②」と解釈できる。つまり、この「なき」は二種の意味
 を担っていて、③」なのである。

問4

「拾ひおきし…」の歌で詠まれている「助」の心情として最も適当なものを、
 次の中から一つ選べ。

- ①娘の女御を失った大臣の心情を思いやり、深い哀悼の気持ちを表している。
 ②主人である女御を失った悲しみにくれ、よるべのない我が身を嘆いている。
 ③女御が亡くなったことを心から悼み、女御の極楽往生をひたすら願っている。
 ④別れてすぐさま女御が亡くなったので、東国に下ったことを後悔している。

問5

- この文章の内容と合致するものを、次の中から一つ選べ。
 ①朱雀院の女御は、容貌・姿をはじめとして性格も優れていた。
 ②女御のもとに「助」という女房が親しくお仕えしていた。
 ③「助」は亡き女御の供養にと思って美しい貝などを拾った。
 ④女御がお亡くなりになったと聞いて、「助」は急いで上京した。

出典

『今昔物語集』巻第二十四・四
 十二「朱雀院女御、失せ給ひて
 後に女房和歌を読むこと」

『今昔物語集』は、p142参照。

*朱雀院の女御＝朱雀天皇は、
 平安時代前期の天皇。九四六
 年に退位し、朱雀院と呼ばれ
 た。「朱雀院の女御」は、藤
 原実頼の娘の慶子。

*小野宮の太政大臣＝藤原実頼。
 *うつくしく思ひ通はして＝心
 から女御を慕って。

*常陸守＝「常陸」は「常陸の
 国」のことで、現在の茨城県。
 「常陸守」は茨城県知事にあ
 たる。

*いつくしき＝美しい。

*御誦経＝「誦経」は、僧に説
 経をさせた礼として僧に贈る
 お布施のこと。

*大き大臣＝藤原実頼。

*うつせ貝＝中身が空になった

貝。貝殻のことをいう。

単語チェック

- ☑ はかなし 形ク
 ☑ 失す 動サ下二
 ☑ 心ばへ 名
 ☑ 心苦し 形シク
 ☑ あながちなり 形動ナリ